

之れが最近に於ける獨逸青年勃興の因と成り果となつて、青年運動の大勢を作つたのである。前記スローガンに依つても、略ぼ知らるゝ如く一種の愛國運動と觀て差支ないのである。

抑もこの「渡り鳥」とは一九〇一年頃伯林近郊ステーグリッツの中學校に於ける生徒の一團が共同して定期的に遠足をするを目的とした一つのクラブが作られ、之れに其のクラブの一青年カールフイツシャーと云ふものが「Wander Vogel」と云ふ名稱を附したの起源したものであるが、彼等は大自然の山野を跋涉しながら當時の獨逸大學の學生、生活の通弊を論議し、彼等の飲酒や喫煙や決闘などの問題に對して忌憚なき批判を爲し、而して彼等は之等の現状を斷然否定することを誓つた。更に進んで彼等は學校も國家も宗教も經濟も悉く墮落せりと宣言し、傲慢なる物質主義の近代生活に於ける機械文明に對して猛烈なる反對の意を決し、青年の熱情と意氣とを以て總てのものを一掃革新せんことを誓つた、彼等は又勝負本位の運動を退け、彼等は神秘的な大自然の中を濶歩し、又人里遠く離れた繪畫の如き草原の風勝の地を悠々自適しながら、歌を唄ひながら、新しい郷土愛

の精神に炎え、眞に魂と魂との觸れ合つた友人同志に依つて、強健なる身體を養ひ、其の中に熱情の籠つた力を蓄へて種々なる創造的活動を促進し、斯くて愛國救世に向つて理想を築き上げたのである。

此の理想は數年ならずして全獨逸の青年の中に擴まり、非常の勢を以て傳播した。そして此の中から種々なる改革運動が芽出され「渡り鳥」運動は一九一三年頃から一九一八年に掛けて一層盛んと成り、一九三〇年には約二萬の「渡り鳥」組合が數えらるゝに至つた。勿論「少女のクラブ」もある。又乗馬隊の「渡り鳥」も顯はれた、それから軍事的のものや、宗教的のものも出來、それ／＼種々なる目的を以て種々なる役目を演ずるやうに成つた。

斯くして獨逸の各方面に於ける種々なる青年運動の蜂起は、獨逸國民の意氣の興隆を示し、大戰後の國民的銷沈を一掃するに足るものが有つたが、併し乍ら餘りに各方面の思ひ／＼な團體が自由なる發展を遂げて行くことは、さなきだに階級鬭争は激化し、間には甚だしく赤色を帯びた團體さへ現れて國家の爲め憂ふべき情勢も一部に觀らるゝに至つた。

之は宣しくないと云ふことから、全然國粹主義を標榜し民族主義の大旗を掲げて斷然起ち上がつたのが、即ちミュンヘンを發祥の地として興つたナチス運動である。彼等はヒットラーを指導者として所謂ヒットラー、ユーゲンドを組織し、世界大戰後に於ける、祖國の劣弱なる状態、ヴェルサイユ條約に依る外國からの壓迫、國內に於ける階級分裂の現狀等を見詰め、ナチス主義の下に決然大同團結を作り斷然國家の難局を打開すべく齧起したのである。而して彼等の熱誠は數年ならざる内に忽ちにして指導者ヒットラーを大總統に迄擔ぎ上げた。而して又、凡らゆる國內の青年團體をナチ一色の下に統一して一國一團の組織を大成し政治も教育も外交も軍事も總てナチ精神の下に行はるゝに至つたのである。宜なる哉今や獨逸は再び歐洲の天地に於て旭日昇天の勢を示すに至つたのである。

青年運動の盛んはひとり獨逸に限らない、伊太利の如き決して獨逸に劣つてゐない。ムツソリーニが率ひて起つたファツシヨ運動は、全く世界大戰後に於ける伊太利を赤化の大禍から救ひ出さんとする青年の奮起に外ならなかつたのである。而して一旦ムツソリーニが政權を掌握するや、絶大の權力と努力とを以て思ふ存分に青年運動を徹底したのであ

伊太利に
於ける青
年運動

る。ムツソリーニは「凡らゆる新しい征服は青年の腕と心と魂とに依るに非らざれば決して確實なる實行は不可能である」とファツシヨ大會の壇上から獅子吼した。斯くて青年の團結力に依つて殆ど腐敗糜爛の極に在つた伊太利國の秩序を數年ならざる中に回復し、同時に内治外交の凡らゆる部面に亘つて一大革新を斷行したのである。

以上は我が盟邦兩國の青年運動の一斑を縷述したに過ぎないが、之を我が國內の現狀に鑑み將又世界列國の狀勢に考へて果して今の儘で満足されるであらうか、勿論我が國に於ても青年運動や指導の組織又は機關は相當に備つては居るが、形式の整つた割りに其の內容實績の之に伴はざる憾みが甚だ尠くない。之は色々の原因事情にも依る事ではあるが直接青年指導の衝に當るべき其の人を得ないと云ふことに原因するものが最も多きに居ると思ふ。斯く考へる時に吾々はどうしても全國の各地方々に配任されて常に地方の青年と接觸して居る『若き教師』其の人等の奮起と努力とに俟たなければならぬ。否らざれば到底其の實績を擧げることとは六ヶ敷、亦、眞に張り切るやうな實力のこもつた新日本を建設することも六ヶ敷と思ふ。

四、新日本への大國民的陶治

以上、全篇を通じて、支那事變後の日本、即ち、躍進日本、即ち、新東亞建設日本、即ち、新日本への教育に對する凡らゆる問題解決のポイントを「若き教師」に置き、大聲疾呼以て呼び掛けて來た譯であるが、今や此の筆を收むるに當つて終局の銚は、之等の

新日本への若き教師に依つて

新日本への大國民を作り上げる……と、

云ふことに向つて投げ掛けられなければならぬ。何となれば教育は教師に依つて兒童に働き掛ける事業であるからである。

元來、教育は理論でもなければ法律でもない、教育はどこ迄も活社會に對する活事業である。吾々實際教育者は須らく現在に活躍せる理想に向つて活事實を實行しなければならぬ、況んや現在の我が國狀は徒に煩瑣な教育理論や外國の學說などに悠々憧憬して居る場合ではない、吾々は現に今現在の我が日本が果して如何なる地位に在るか、而してそれに

は果して奈何なる人物を要求せるかを最も適實に考究する所がなければならぬ。

然るに今次の支那事變は我が日本の地位をして眞に一躍進展せしめた、今迄支那海と日本海とを隔て、颯々南北に横つて居つた我が島國をして忽にしてアジア大陸に縫合せしめて了つた、もう之からの日本は島帝國に非らずして正に大陸帝國である。之れからの小學校に於て支那や滿洲や蒙古の地理を教ゆるに外國の地理を取扱ふのだと云ふやうな考へを持つて居ては駄目である。暹羅に對しても同様であり、乃至、東トルキスタン、ビルマ、印度等に對しても同様である。之等を皆友邦兄弟國として相携へ相扶け相率ひて行かなければならぬ、そこに新東亞建設の新生命がある譯である、新東亞の建設は決してブロックでも無ければ聯盟でもない、血もなき涙もなき乾燥無味な經濟ブロックや政治聯盟では折角の建設もいつ壊れて了ふか分らぬ、新東亞建設はどこ迄も我が日本民族を根幹とした有機的渾一體の形成でなければならぬ。而して政治的にも經濟的にも軍事的にも外交的にも打つて一と丸とした新東亞として今後生長發展して行かなければならぬ。斯の偉大な強固な結成の力を以て初て眞の世界の平和にも呼び掛けらるゝのである。

之れが爲めには何と云つても根本の根本は曩にも屢言せし如く人間を作ると云ふことである。其の人間とは如何なるものを云ふか、それは何も廻り遠く云ふ必要はない。

新東亞の建設にふさはしい大國民……を作ると云ふことである。

由來我が日本は東洋の小島國であつた、叢爾たる山又山、屏々たる川又川、其の山川の間に羊腸崎嶇たる小路を通はして居る、さればこゝに育つた國民は自ら島國根性が生み付けられたと誰もがさう考へて居る、併し之は非常に淺見である、亦、短見である。本來の日本國民性は決してそんな小さいものではなかつたのである、成る程山は多い、川は小さい、道は狭いが、轟々たる一山を越ゆれば忽ちにして豁然として洋々たる大海に臨むは我が全國各地皆然りである、誰か此の縹渺たる大洋に臨む時、襟度宏豁、志望遠大、「あの海越えて？あの海越えて！」の感起らざらん、此の點より觀察して我が國の地勢は寧ろ大國民性の涵養發展に該適して餘り有るのである。現にそれは我が國上古の神話、文學等に徴して極めて明々白々たるものがあるのである、宏大無邊世界遍照の我が肇國の大理想は既に己に、天照大神の天壤無窮の御神勅の中に窺はるゝのである、又、神武天皇御即位の

勅語の中にも「六合一都」「八紘一字」の大理想を御示しになつて居る。而して爾來我が皇室は斯の大理想を實現すべく吾々國民をはぐくみ導かれたのである、であるから吾々は本來堂々たる大國民であつたのである、然るに應仁亂後の戰國時代から封建制度の確立、鎖國禁制等が遂に／＼小國民性を馴致して了つた。そこで吾々が新東亞を建設して大陸的發展を眞に成就せんが爲めには先づ根本的に國民性の大復古を圖ることが最も緊要である而して我が國民本來の大國民に立ち復へることが肝要である、今次の支那事變後に於ける我が國回天の事業の大根柢は全然斯の大國民性の上に築き建てられなければならぬ、否らざれば前途は極めて危いものである、一時の權勢に驅らるゝと云ふことは大に戒しめなければならぬ。

一と口に大國民と云つたが、其の内容を大に吟味する所がなければならぬ、例へば近世に於ける大國民としては大英國人即ちアングロサクソン民族を指すに誰も異議を挾むものは有るまい、成る程英人も初から大國民ではなかつた。殊に十六世紀就中ゼームス一世の頃の英國人は英蘇合併問題や其の他小さい問題の爲めに頻りに國內の調和を缺きて些事小

闘を之れ事として寔につまらぬ國民であつた、然るに英國人も大に反省する所があり、シ
 エクスピアとかベーコンとかミルトンとか或はクロムエル等の如き文學者や或は英傑の士
 が出で、思想上り文學上より將又、政治宗教上等より國民精神の統一を圖り、特に國民的
 陶冶を奨むるに偉大(グレート)と云ふことを以て標的とし、ひたすら教養之れ努め、斯く
 して遂に大英帝國(グレートブリテン)の建設を成就し、遂に地球上に於ける英領土内からは太陽の没すること
 を知らずと云ふ迄に成功したのである。然るに仔細に英國人の爲し來つた跡を洞察するに
 彼等は成る程口には紳士(ジェントルマン)と稱へて居るが、一旦事外交のことになると詐
 謀偽策至らざるなく、殊に十七世紀から十八世紀頃にかけて印度やアフリカ、濠州其他到
 る所に植民地を奪取した其の手段に至つては威嚇、強奪、甚だしきは慘酷非道の方法にさ
 へ訴へて聊か憚る所なき事をやつて居るのである。之では如何に大國民と成つても天理人
 道に照し人類史の上に於て決して永久の生命を持続することは出來ないのである、宜なる
 哉、現時の英國を見よ、植民地は各地々々に英本國から離れて殆ど獨立し、お足許のアイ
 ルランドさへ分離せんとして居る有様で、近世の世界史上に偉大を誇つた大英帝國も將に

瓦解に瀕せんとして居るのである。吾々の欲する大國民とは決して斯んなものではない。
 どこ迄も正々堂々と天地の公道を履んで聊か耻づる處なき大國民でなければならぬ、而し
 て永遠無窮に生成發展する所の大國民でなければならぬ、數百や數千年の榮枯盛衰を物語
 るやうな國民では人類史の上から觀ては槿花一朝の夢にしか過ぎないのである。吾々の作
 り上げんとする大國民は我が天壤無窮の國體に副ひ飽く迄も天業を輔翼し奉るに足るもの
 でなければならぬ。今後の我が國民教育は滿洲や支那は勿論世界の執れに押し出しても聊
 か引けを取らぬ人物を作り出さなければならぬ。

之を要するに吾等の眞の大國民とは、先づ

第一に、膨脹性……に富み、天涯地角地球上の到る所に新殖民地を開拓して八紘一字の

天業恢弘に貢献すべき國民を云ふのである、随つて人口もどしどし
 殖え、而してそれ等が積極進取の氣象に富みて苟も保守退嬰的にな
 く營々として發展する國民でなければならぬ。佛蘭西のやうに年々
 人口が減少して段々と心細く感ずる様な國民と成つてはもう駄目で

ある。

第二に、無窮性……を有しなければならぬ。五年や十年の持久性とか、百年や二百年の長期建設位では、我が建國の精神には合致しない、古羅馬があれ程の偉大な大帝國を建設したが約千年にして亡びて了つた、今は歴史上に其の殘骸を留めて居るだけである、我が日本の國體はそんなものではない、飽く迄無窮的な國民性の上に建たなければならぬ。

第三は、道德性……を失はないことである、即ち吾々の大國民はどこ迄も正義人道を歩み、倫理道德に立脚しなければならぬ、倫理道德に立脚しない國民は如何に權勢を逞ふし、強大を誇つても決して眞の大國民と爲すことは出来ない、吾々は有徳の國民となつて地球上の凡らゆる民族を包容同化して行くでなければならぬ、而して世界人類の信賴と尊敬とを受くる國民と成らなければならぬ、例へば今次支那事變の如きも彼等の抗日意識を轉じて親日たらしめなければならぬ。併しながら

ら、更に進んで親日をして敬日に至たらしめなければ決して眞の解決は出来ないと思ふ、之は今後の我が國民教育に於て深き／＼考慮を拂はなければならぬことと思ふ。

眞の大國民なるものは以上三つの要件を以て資格付けられなければならぬ、其の一を缺いでも大國民とはなれない、然るに之等三つの要件を打つて一と丸とした最も具體的な國民陶冶の標的となるべきものは何であるかと云ふに、それは

質實剛健
は大國民
の必要

質實剛健……と云ふことに結着されるのである。斯く云ふと論者或は——何んだそんなことは一個の修身的徳目に過ぎないではないか、そんな徳目を擧げるなら未だ他に指示すべきものも多々あらん、何ぞ夫れ質實剛健のみを云はんや——と、夫れ然り、若し之を單なる一個の徳目として解するならば論者の言の通りである、併しながら著者の眞意は決してそんな淺薄なものではない。今は之を縷々説明するの違を有しないのであるが、社會文明の人間の生理及び心理に及ぼす程過を考察し、更に之を過去の歴史に鑑み且つは我が國の現在に徴し將來に考へて、特に特に之を提起した譯である。我が國民から質實剛健と云

ふことが段々と紙を剥ぐやうに薄らいで行くならば、國民の體力も減退し孱弱化するは勿論世界に矜る日本精神も消耗し、凡ゆるる點から大國民たることは措いて、次第くくに小弱國民たるの淵に沈淪して行くであらう、眞に戒心しても尙餘りあることである。

斯く考へて來ると、從來のやうな甘たらしい教育法では到底駄目である、之が爲めには「若き教師」その人が先づ自ら質實剛健に自ら大國民たる抱負と信念とを以て、今後の國民をもつとく鍛ひに鍛ひ、錬りに錬り上げて行かなければならぬ、斯かる大國民的陶冶には餘程強い大きなハンマーが揮るはれなければならぬ、そこで問題の結局は此のハンマーを揮ふべき教師その人に歸する譯である、斯く詮じつむれば最早贅言の要はない、賢明な若き教師諸君は豁然大覺自己の大局的任務が何れに在るかを自得されるであらう。本著各章各項に説き去り論じ來るもの、其の總てが大國民的陶冶の任に當るべき、今後の若き教師に對して聊か覺醒發奮の端緒を與へたることを信じて疑はないのである。(終)

若き教師
の大局的
任務

昭和拾四年
二月廿七日發行

不許複製



著者

東京市目黒區洗足町一四七三

白土千秋

發行者

東京市神田區神保町一ノ一二

吉武友樹

印刷者

東京市神田區須田町二丁目三

小林正雄

發行所

東京市神田區神保町一ノ一二

株式會社 教育研究會

電話 神田六五五番
振替口座東京五八一八〇番

新日本への若き教師

【定價一圓三十錢】

〔行印所刷印町田須〕

文學博士 吉田熊次著
教育學原論
菊四二〇頁判
背皮美本入
送料十八錢
定價三圓五拾錢

陸軍教授 大村桂巖著
教育學汎論
菊三〇頁判
上製美本
送料十二錢
定價貳圓

陸軍教授 林 圓應譯
バルト氏原著
教育學概論
菊六三〇頁判
函入美本
送料十八錢
定價貳圓

東大助教授 阿部重孝著
學校教育論
菊三七六頁判
函入美本
送料十八錢
定價三圓

立教大學教授 岡部彌太郎著
教育的測定
菊四六二頁判
美背皮特製本
送料十八錢
定價四圓

東大講師 上村福幸著
知能測定法
菊七二二頁判
美背皮特製本
送料十八錢
定價五圓

文學博士 吉田熊次著
最近教育思潮
菊四一三頁判
函入美本
送料十二錢
定價三圓

文學博士 入澤宗壽著
新教授法原論
菊三九一頁判
上製美本
送料十二錢
定價五圓

文學博士 入澤宗壽著
教育思想史
菊六〇〇頁判
美背皮特製本
送料十八錢
定價五圓

文學博士 補永茂助著
日本思想の研究
菊八七頁判
美背皮特製本
送料十八錢
定價三圓五十錢

京都帝大講師 高橋俊乘著
日本教育史
菊四九〇頁判
美背皮上製本
送料十八錢
定價四圓

東京文理大學教授 加藤仁平著
國民精神發達史
菊二八三頁判
上製美本
送料十八錢
定價三圓五十錢

二高教授 岡澤鉦治著
言語學的日本文典
菊三八九頁判
美背皮特製本
送料十八錢
定價三圓五十錢

九州帝大教授 長沼賢海著
日本宗教史の研究
菊二〇九頁判
函入美本
送料十八錢
定價四圓

文學博士 篠原助市著
理論的教育學
菊六〇八頁判
函入美本
送料十八錢
定價五圓

文學博士 篠原助市著
教育本質と教育學
菊四五二頁判
美背皮特製本
送料十八錢
定價三圓五十錢

武藏高校教頭 山本良吉著
新訓練論
菊三一六頁判
上製美本
送料十八錢
定價三圓五十錢

東京女高師教授 內藤智秀著
西洋史概觀

京都帝大講師 高橋俊乘著
增訂日本教育史

福岡縣立三池中學校長 白土千秋著
精勤勞教育

東京市立衛生技師醫學士 山崎祐久著
少年醫學史

理學博士 竹內瑞三校閱 藏原安治郎著
改版少年數學史

最新刊 全一冊
菊判ポイント組
特製美本函入
紙數七百數十頁
定價四圓五十錢
(料送) 錢四廿

忽再版 全一冊
菊判ポイント組
特製美本函入
紙數五百頁
定價三圓五十錢
(料送) 錢四廿

忽六版 全一冊
四六判上製美本
紙數約二百八十頁
函入美本
定價一圓三十錢
(料送) 錢四十

頗る名 全一冊
寫真版凸版多數入
紙數二百四十頁
定價二圓
(料送) 錢八十

忽再版 全一冊
菊判上製美本
紙數三百八十頁
函入
定價二圓五十錢
(料送) 錢八十

東京神保町 株式會社 教育研究會 振替 東一八〇番
東京神保町 株式會社 教育研究會 振替 東一八〇番

歐米の印象	入澤宗壽著	四六判美本	金一圓五十錢 送料十六錢
教育學要項	同	菊判上製	金二圓 送料十四錢
新教授法原論	同	四六判上製	金一圓五十錢 送料十四錢
歐米教育思想史	同	菊判背皮	金五圓 送料二十四錢
入澤教育辭典	同	四六判總皮	金七圓 送料三十錢
教育學原論	吉田熊次著	菊判背皮	金二圓五十錢 送料十八錢
最近教育思潮	同	四六判上製	金三圓 送料十八錢
青年心理學	土井、上村共譯	菊判背皮	金三圓五十錢 送料二十四錢
知能測定法	上村福幸著	四六判背皮	金五圓三十錢 送料二十錢
材能研究	淡路圓次郎著	菊判特製	金七圓 送料二十四錢

東京神田一丁目 株式會社 教育研究會 振替 八八〇一 東京 〇八

388
144

終

